

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

目 的 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. 鉄建造物の保存と修復に関する研究：鉄建造物の保存と修復に関する現状の課題を踏まえ、国内外に所在する約40件の歴史的な鉄建造物（名古屋市東山植物園温室、英国フォースブリッジ、台湾蒜頭製糖工場等）の現地調査を行い、実態把握と事例収集等を行った。平成30年度に報告書刊行予定。
2. 近代文化遺産の活用に関する研究：近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員等として、近代文化遺産の活用に関する包括的な検討を行った。特に、供用下にある近代文化遺産の円滑な活用や、地域活性化を念頭にいた活用構想の段階的な実現手段としての保存活用計画の可能性等について検討を行った。
3. 国際基督教大学所蔵ジェットエンジン部品の調査：国際基督教大学が所蔵する第二次世界大戦期に製造されたジェットエンジンの価値等に関する調査を行った。
4. 報告書の刊行：平成28年度に実施した煉瓦造建造物の保存と修復に関する研究内容を報告書にとりまとめた。また、同年に刊行した和文報告書「近代文化遺産の保存理念と修復理念」の英語版を刊行した。

報 告・石田真弥「東京形煉瓦を製造した工場の生産能力に関する考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集』 pp.333-334 17.7
 ・石田真弥「東京形煉瓦の品質に関する一考察」『2017年度日本建築学会関東支部研究報告集』日本建築学会 pp.643-646 18.3
 ・北河大次郎「防災遺産の系譜と立山砂防」 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会 17.10

発 表・北河大次郎「これからの近代化遺産を考える」 足利の近代化遺産を考える会 17.10
 ・北河大次郎「インフラ・土木遺産の観光資源としての魅力と可能性」 土木学会西部支部 17.11
 ・北河大次郎「20世紀遺産20選と富山の遺産」 立山黒部を愛する会特別講演会 18.2

刊行物・『煉瓦造建造物の保存と修復』東京文化財研究所 17.8
 ・『Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties』東京文化財研究所 18.3

研究組織 ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、中山俊介（文化遺産国際協力センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎（以上、客員研究員）